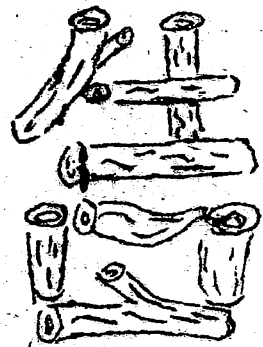
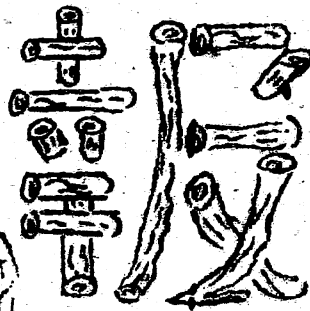
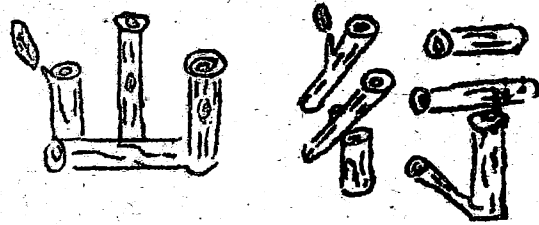


1972年度 一巻上頁一



信州大学長野山岳部

目次

1 春山縦走合宿 (前下川下又縦走) 1~2

2 強化合宿 3~4

3 夏山縦走合宿

藤松P 5~6

北沢P 7~10

4 仙人山行

中又白川四峰へ 11

○夏山の野口Pは都合により別冊に存ります。

○仙人山行については別冊の仙人山行報告が各人分。

○出工れると鬼川です。

春山縦走(山 菊池 賀瀬 西川 小川 北沢)

3月20日 ① → ②

5:30 松本駅集合 6:02 松本発 (汽車) 7:00 有明発 (Bus) 7:20 宮城着
7:30 宮城発 8:00~8:30 一泊 9:05 トノネル (75)

朝から雨のバラツキでいよいよお天気がある。体調不調 行く気なし
宮城から雨の中を歩いた。トノネル内に トレイルは 2km ほど正偏路だった。

3月21日 ③ → ④

5:00 ESSEN 10:00 杉 停滞 10:00 出発 10:50~11:00 焚火所
11:55~12:05 中房温泉 12:40~12:50 (スリッパを脱ぐ) 1:25~1:35 中房
2:25~40 中房 ⑤ 3:00 T.S

朝は雨から雪になって 5:00~10:00 杉 待機した。中房からは E.L.D. と雪も
深くなり、スリッパが脱落して じつと歩くことになった。ヒッパもヒッパ トラカッリ。

3月22日 ① → ① → ②

6:00 T.S 発 6:45~55 7:45~55 (T.S) 8:45~9:00 燕山荘 ⑥
9:50~10:00 カエル岩 10:50~11:00 12:00~12:10 12:45~1:00 大天井山頂
1:55~2:05 大天井と横道の間 3:10 常念乗越

さのうの空とはお昼様。今日の積は快晴だった。燕山の登りは 怖れたことなく
上の方で P.S. をつけた。カエル岩のあたりで、一回 P.S. を出して、カッパを脱ぎ
おろしたところあり。大天井の乗りは ヒッカ ヒッカに氷がいてスゴかった。
大天井の小屋は (お昼と夜明けの先を脱いで、うまっていた。今日は常念乗越の冬季
小屋のテントをはずして来る。

3月23日 ② → ③ 風ッ

6:30 T.S 発 7:20~7:30 7:45 常念山頂 (5分) 8:25~35
9:25~9:40 10:30~40 11:25 常念岳 コップ

常念乗越から常念は 土の道で少し登ると カッチカッチに氷が積もる場所になり
そこを登って 1km ほど山頂へ来た。常念岳は 風が強く、ガスがかかり、お昼は 1km ほど
に下るとか何度かあった。雪はほとんどなかった。冬季小屋に入ると、ESSEN
は 3リ。外の風が吹いてても中は 20℃ ほどあり 快適なもの。

3月24日 ④ 強ッ → ⑤

朝 霧 濃く、風 強く、沈黙 下り。屋の木ツケキの エライことと聞いた
この上なし。生クリーンはおいしかった。

昼頃 晴れ上がり。穂高や槍が 青空のもとに見え。カメラを持ってこ
かったこととよくやった。

3月25日 ① → ○ → ②

6:05 蝶ヒツリ登 7:00~7:10 7:30~7:40 大滝小屋。(7:10~8:10)

8:40~8:50 9:30~9:40 10:40~11:20 大滝橋見台 12:10~12:20 1:45 徳本

蝶ヒツリとヒツリとあはれ石ロードを歩いて徳本峠へ向かう。雪がスズクスズク。大滝小屋を柱るとラッセル。ラッセル。ラッセル。樹林帯のラッセルはいやなものであった。徳本小屋は積雪でうり。ほりおこしたか。メテシモはく。

3月26日 ④

雪が降っているので^池殿。秋田氏が登ってくる。=升かかえて。という話。しかし全く来ない。雪の中でむなくまたあきらまつ。

3月27日 ⑤ → ①

7:10 7.5登 8:30~45 9:45~10:00 河童橋 11:10~11:20 釜トノ前(ハット)

11:30~11:40 釜トノ出口 ④ 12:30~12:40 1:30 沢渡着 バスおいて

いなか ~~タクシー~~ にて松本へ。

秋田氏は来ず。春の上高地を歩いてみたというこに上高地側へ下る。春の上高地は人の気はいいとてよかった。釜トノ前ハットで歩いたが。なんともいれな恐工がある。コウシは出なかった。沢渡で。お茶を飲んでお茶をたべていた。タクシーで帰ることにした。タクシーで帰る人が。運賃も おどろくような。タクシーであった。

<記 此 次>

《反省》

春山縦走に対し 2名の部員が入れなくなってしまった。二のこを考えて欲しかった。入れなかったら。はたしてかまろの山行をしていいだろうか。疑問である。

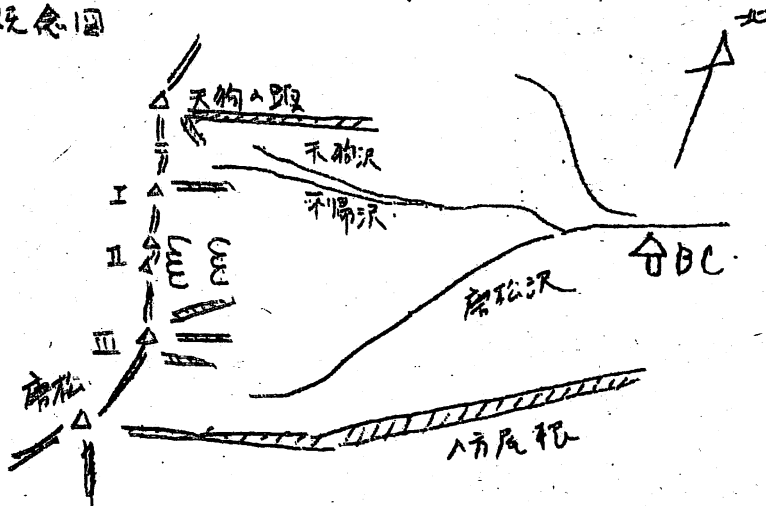
春山。これ自身は暖かく何かえてくれた。FJD。(夜は寒かったか)。最初は何が主で苦しい2日間であったが。稜線がこれでは風邪もどにかえりて行く。体調も良かった。設営時なとては便利だが。少しはいいか。お利うに行かした。2年部員になる前か。なんとなく楽しい気持がする。春山は秋田氏から酒の差し入れを期待して。徳本へくるか。アホ。松本で。お利うして秋田氏へたかろうぜ。

強化合宿

- 1 期日 4/28 ~ 5/3
- 2 場所 後立山不帰岳東面 (南俣取入口 BC 設営)
- 3 参加者 CL 秋田 敬典(4) 久 菊池 官人(3) 加賀 瀬 豊彦(2)
野口 彰(3) 藤松 太一(3) 西川 義満(2) 小川 邦一(1)

北沢 茂 俊(2)
部分参加 教育学部 顧問 教官 小林 玄彦

4. 概念図



5 行動記録

4月28 ① → ②

長野バス 白馬 9:30 — 細野 — BC 12:30

長野バス 原行バスで出発。白馬川を越えて BC 着。直ぐに甲雨入山に、横渉に苦勞している様子が見え、BC 設営と橋設営と分けての時間とで、立派な木橋をかける。(二俣川にみる 残雪の不帰岳の跡 — である)

4月29日 ③

BC (6:00) 7:00 - 9:10 不帰沢登山口下 (雪上訓練) ストップ、エッジ、ツラット 不帰沢経由
9:15 I 峰 — II 峰間ルンカ (戻セド) 14:25 BC 着

雪上訓練は、いつのことながら、いやなものであった。不帰沢の上部に雪が、下から降り、緊張の連続、と、30分程度から、スノーシューが流水出し、こぼれだした。I、II 峰間ルンカの間、戻セドは、快の、ゆるい、スピード、距離、傾斜と、ゆるい、ゆるい、小林 先生 入山

4月30日 ○

BC — I, II 峰間ルンゼ出合い — 唐松沢 — Aルンゼ — 立, 皿 峰間の3ル
5:05 7:00 ~ 7:10 7:20 ~ 10:05

I, II 峰間ルンゼ — BC 13:20

不帰沢出合いに2 別行動の小科先生と別れ 唐松沢まで帰る。
Aルンゼの傾斜もきつ。バテル。ハテル。またモヤ雪のこににらされた。
立, 皿 峰の下りは、ハンナトラバースや、ニおっているところへステップを「かた」り。
ニおいことなつかし。I, II 峰間ルンゼは昨日同様、快遊

18:30 小科先生下山

5月 1日 ㊦

雨のメーテ 次殿

5月 2日 ㊦

雨の5/2日 次殿

5月 3日 ㊦

BC 徴収 下山開始 — 白馬
10:55 12:30

徴収前 スキーカ「不」を取りに菊池さん 藤松さんで「不帰出合」までいり。
上の高いとニ3分新園が「不」っていること。白馬まで「ヒツク」に下山
歩く人が「不」かた。誰かし。

<反省>

装備反省... 忘れ物を全く忘れてしまった。もつてPの出し方がはっきりして置いていれは
装備のたとの元気が「不」くいたのは。(他Pとカとリありと「不」るから)
(4/1)

他人の反省

二度目の不帰の巻ももう一度。一度あると「不」は二度ある.....
前半あたかも快勝が「不」るかに思われたが、いかに「不」圧が「不」
「不」は「不」完敗。今に「不」り。この「不」山が「不」一番「不」いこと「不」は「不」で
痛感した。不帰は2回も「不」にみえ。I, II 峰間ルンゼを「不」て「不」
下った「不」で「不」山「不」て「不」? 「不」も「不」は「不」い「不」かいた。「不」しと「不」
「不」不帰へ「不」来「不」て「不」ハ。
(藤松)

合宿のたびに同じような反省をするのは、自分自身又、読者の心を
「不」は「不」しくなかう。大部分は「不」略して、本合宿にか「不」つての「不」ことを「不」う「不」ら。
・「不」登れ「不」かた「不」不満
・スノーシューの中の「不」行動の「不」危険さ
・各係の「不」上下の「不」連絡の「不」まずさ

} である

MJI

夏山縦走合宿 (L藤松, 氏家, 尾崎)

7/24 ○ → ◎

7:20 長野出発 (バス) 9:30 白馬 (バス) 9:40 細野 (7-770) 10:40 ウサギ平 (117+) ◎ 黒菱
11:45 1本 12:45 1本 13:50 1本 14:50 1本 15:50 豊松岳 TC着

7/25 ①

5:50 TC発 6:40, 7:40, 8:40, 9:40 五竜P. 11:50 11:45, 12:45
13:40 14:00 キレット小屋手前設営

7/26 ①

4:40 TC発 5:35 7:15 鹿島槍南峰 8:15 9:15 10:15 10:40 爺岳
11:20 種池小屋 12:10 TC着

7/27 ◎ → ◎ → ◎ → ①

4:10 TC発 5:00 6:00 7:00 赤沢山 8:10 9:00 スハリ岳
10:00 針ノ木岳 10:40 針ノ木小屋 TC

7/28 ①

4:10 TC発 5:00 沢登子 { 滝 出だれ10m } 7:10 8:00 稜線ルートに出る
最後15m

7/29 ◎ → ◎ → ◎ → ①

4:30 TC発 5:30 6:30 7:25 7:45 8:25 9:30 水晶小屋
10:30 岩吾乗越 クレット 11:25 祖父岳 12:00 TC

7/30 ◎ → ◎ → ◎

5:30 TC発 6:30 道を誤ったらしく引かえり 7:00 誤り所記 9:00 薬師木小屋
10:00 11:00 12:20 TC
※定通行止めの道だった

7/31 ①

4:05 TC発 4:55 5:55 6:55 7:45 黒部五部の肩 (雪深下3)
9:00 黒部乗越 10:00 10:50 三俣の汗岳 クレット 12:50 双大着 (TC)

8/1 ①

3:50 TC発 4:45 5:55 7:10 槍ヶ岳肩 8:20 槍ヶ岳山
8:40 甲岳 11:10 クレット 9:30 中岳 (TC) 10:50 キレット 信州側設営

8/2 ①

4:30 雪渓を乗りこえルンに到着。6:05 北本。7:20 穂高岳山荘 奥本通過 8:10
8:30 シャンポストリ 9:30 天狗の口 11:20 西本 12:30 13:30 14:00 ST着

《反省》 藤松 太一

ほぼ計画どおり山行が終了し、無事下山した今合宿を振り返ると、いろいろな点で問題があった。

まず一年部員である俺が新人二人をつれて十分指導できなかつたと思う。たとえばしとしておれが覆山の範囲内にかかわらなかつた。甘い所があり、又山行が予定通りゆき、1日の沢渡もつかぬなかつたが、逆にゆとりになりアクセラした山行となった。又新人二人に対していつものことながら自分の立場でしか考えず、つねに俺が出来たから新人にも出来るという域を出なかつた。又コース 針ノ木リセクスの方であったが、針ノ木谷を降り 般瀬谷を逆行したのは 新人2名というメンバーから考え、危険であつたと思う。

しかし総じて今回のおれはいい。体力養成の目的は一定の成果をみたものと確信する。新人諸君 これらの合宿や個人山行の中より、自分か山登りというものを思ひ、実践して欲しい。

氏家 浩三

今回は重量、価格あまり向題としていて、うまく食べれるようには ESEN に

してあげたが、身察は計画の不備の爲、かなり修正をされた。個人的な問題は置いて、今回の ESEN で向題になるのは、計画と山行中での ESEN の違い、詳細にたてられた計画が、かくなるのではないかと。山行中の都合もありました。

・山岳部としての僕の山行と、僕自身の求めている山行に少し違いがあるようである。今回の合宿では一年部員にもかわらなかつた。かなりのおれがまをました。

尾崎 一虎

行動中トップのペースについていけず、マイペースであるしてはつたことは、入山前のトレーニングが不足していったのだからと思う。入部以来もう3回の山行であるのに、基礎ができていなかった。徹夜のとき行動が敏感であつたし、言われるまで何もしてなかった。ESEN で ゆほうして、コッヘルをひっくりかえしたりしてはつた。

それに多くの注意をうけたのに、何度も同じ誤りをくり返してはつた。

冬山において体力、雪上技術に大きな不実が残る。

今後は一つでも多くの欠点を強めていきたい。

夏山縦走 (山, 北沢, 西川)

7月26日 ①

(汽車)
 5:47 松本発 8:44 平岩 (寝たのぐ)
 平岩について 駅内で寝アケ口を出してベンチの上におこなった。こわいおじさん
 乗かて来て かいせされた。しかたなく のき下をかり又おネネ

7月27日 ① → ② → ③

6:30 平岩発⁽¹¹²⁾ 8:20~8:30 温泉口, 9:00~9:10 蓮華温泉 9:50~10:00 平馬平
 10:40~10:50 瀧川 11:40~11:50 白高地沢 12:40~14:00 七尾原 (お昼寝)
 14:50~15:00 15:50~16:00 16:50~17:00 七尾山頂 18:05 小桜ヶ原着(T.4)

白馬北方のお花畑 じつにきれい。メルハンの風景の中を若い男女が二人
 肩を組んで下から、わたくしと登って行きました。冷たい水でジュースをつくり、黄桃の
 カンズメをあげて二人でたべました。(来年の夏山計画(利一)コマ) 水バショウの
 花が咲いていた。一日目からこんなに沢山あるいて二人ともバテています。

7月28日 ① → ② → ③

6:40 小桜ヶ原発 7:30~7:40 8:30~8:40 8:55~9:05 雪倉山頂
 9:35~9:50 山ハット 10:35~10:45 11:35~11:45 12:00~12:40 白馬山頂
 1:30~1:40 裏山 2:30~2:40 清水岳 3:30~3:40 4:05 不帰CT小屋

三口峠境をすぎると人がいっけいであった。清水への下りは静かだ。お
 こもお花畑。お花畑。不帰CT小屋はバッドワキであった。

7月29日 ④ → ⑤ → ⑥ → ⑦

5:00~6:40 夕飯 6:40 出発 7:30~7:40 8:30~8:40 9:30~9:40
 10:30~11:20 祖母谷 (大休止) 12:10~12:20 木平村おじさん 1:05~1:15
 2:10~2:20 白合谷 3:20~3:25 大平山頂 4:20~4:30 4:50 阿曾原(T.5)

朝雨が降っていたので夕飯する。百間の大下りは地図と違っていて、トラバズ
 をしたがら下りが怖い。それでき定はかりかく、祖母谷にて足ならしに
 一時間のお休み。阿曾原まではかいたいかに木平平道らとはず。阿曾原に?
 中田Pと合流。中田Pの好意でテントにとめてもらった。

7月30日 ⑧ → ⑨ → ⑩ → ⑪

沈黙

朝は雨は降らなかつたが、いつか雨は降ってきた。この読みの深さ、大
 勝利だ。レインジャーとどきどき(か)く、高部山をさす。他は
 派山をさす。腹いっけいいさへて、R.B.ヒョウ。沈黙は正解
 だった。

7月31日 ○

4:55 T.S.発 5:50~6:00 6:50~7:00 仙木湯手前の足跡 7:50~8:00
8:30~9:30 仙人池 10:20~10:40 11:30~12:00 小窓 12:40~12:55
1:40~1:50 小窓王下 2:00 三ノ窓

阿常原を後に仙人へ。仙人にて剣のまわらしにしておいて、中田Pとまわが
来ないから出発。小窓雪渓はのぼりやす、小窓から三ノ窓は、灰みあとかい
り助かつたがキスリングではエライところだ。三ノ窓はキジのこやが
ひびく。人間もひびくいた。雪のよにテンポツたも夜ほととせさむかつた。

8月1日 ○

5:00 起床 6:15 中央千ムニ取りつく 7:00 中央大バント 8:00 千本の頭
8:30 三ノ窓 9:45 三ノ窓発 10:20 ~ 10:30 池ノ谷乗越 11:30~12:00 剣P
1:05~1:25 前剣 2:05~2:15 剣山荘 2:35 剣沢 ○→①→②

中央千ムニ取りつく。人が多くて中央千ムニはラッシュ。北沢トツアで
中央千ムニに降り。ツルベにて ZP 中央大バント。Aバントはコンラで歩き
Bクテツアへ。1P少々 合計 一時間 少々カトハンであった。千本は楽
く岩が舞れぬのであるが、ケレンテになつたふうな気がする。人が多すぎる
からか。剣沢へは 剣の稜線にキスリングで歩くのはとてもうらかつた。
足がこわれそうにいい人だのまゝのときだったか。

8月2日 ②風ツ → ③ → ④

5:00~7:30 夕飯 7:30 T.S.発 8:20~8:30 剣御前小屋 9:15~9:25
9:55~10:05 大池 休憩所 10:40~10:50 一越 11:45~12:10 免岳
1:10~1:20 ガラ峠 1:45 五色ヶ原 (T.S.)

剣沢の朝。ガスく風強く夕飯
今日は雪島によくあつた。アノシヨウ 玉巻にかたし雪がふどり
はじめた。中田Pと再会。

8月3日 ⑤

沈殿 (強風 強雨)

8月4日 ⑥ → ⑦

沈殿 (強風 霧濃く)

この二日の沈殿 おじめなもかだつた。夜にツェルトはたおしれぬし、シン
ホーは条件なし。シテフはビツチビツチ。ついにカッパを来たれた。
中田Pのテントのうらやましくおもしろいこと この上なし。

8月5日 ① → ② → ①

5:00 75 発 6:00~6:10 7:05~7:10 スジ1頭 8:05~8:15 スジ小屋
9:05~9:35 向山 10:30~10:40 11:40~12:00 薬師山頂 12:35~1:45 薬師山荘
2:35~2:45 太郎平小屋 3:35~3:45 4:20 上ノ岳より少し下の赤平平がわ

黒部五郎平でと出発するが 薬師山荘でお茶がどて、乞食袋とひらいて
ものほしにしてみた。山岳乞食とほうちく 高たものや、下は 人気もな
く水晶が 前と見え とても下かった。このよう場所では キャンプはゆ
るしてはいいところのぼろ。

8月6日 ① → ①

5:00 下ノ発 5:50~6:00 6:50~7:00 7:50~8:00 黒五のカーン 8:50~9:10
10:05~10:15 頭 11:05~11:15 11:40 又六着(T.S)

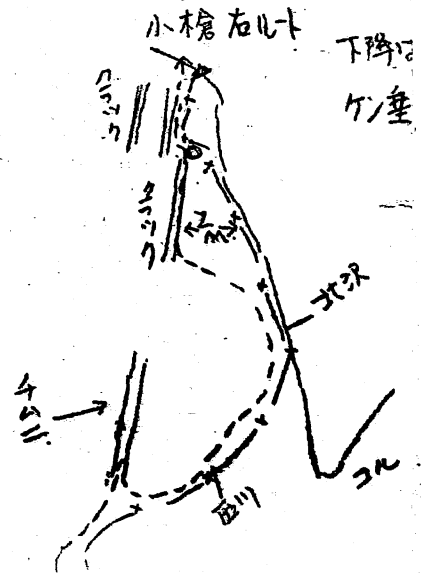
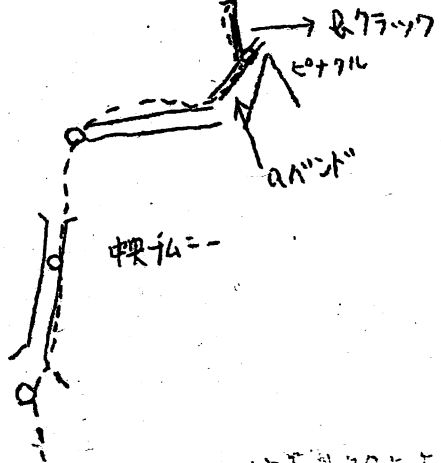
黒部五郎平をこえ三俣 から又六へと。レインコートも買った。3:00 山頂 赤平
がやって来て、又六にもアライのゴルがひびき 乞食が五人ぐらいいに居た。
あすは台風がくるか？

8月7日 ① → ②

4:20 下ノ発 5:10~5:20 硫黄乗越手前 6:10~6:20 7:20 小倉の着
(小倉 ZP 8:20~9:30) 10:20 小倉発 4:00 頃 上高地着(S.T)

朝からとは"して 5:00" 2:00 で小倉へついた。小倉のトハンに 浮石
が落ちて こわいものであった。上高地までは 2:00 ぶらと つかれまて
かえつた。 <北沢.記>

今ノ中央チムニ



○は...の...点

《反省》 北沢 西川

縦走への意識の日さか、つと何かロリッとしたところに欠けていた
ようだ。ラジオを持たなかったこと。とろどころで天気図は書いたが
ラジオは持っていくべきだった。楽しくもあつたかもしれない、もと
二人でいくのだから ESSEN. 装備など軽くすればよかった。道を
まよいで誤ったのは自分の免か強不足であろう。

毎日二人ともつくがあつたけど、一般的にはなり部類へ入り
であつた。しんじやへは縦走中もやるべきだ。上高地だけでやるよ
うなものではない。二年生二人なので気が楽でたのしい山行となつた。
しかし新人指導について少し考えるべきであつた。このことについて
は、総会の内容と合宿内容との間に違いがあつたように思わ
れてならない。自分としては、個人山行を主として、10月以上の縦
走というように話が進んだと思うが、夏山の合宿したいという趣
意があるのだろう。C.S.としてはまだ判断がとえず、決断が悪い。
もっと自身をもたなくや。体力養成はできたと思う。内容もほぼ
計画どおり。すべし。 (来年は女の子と個人山行に白馬北
へ行くのだ。のりこい人は北沢君といて、さうだい。ただし荷物か
つたはだ)。



中又白谷より四峰正面北条・新村ルート (L加賀瀬・ICR)

8月25日。 ○ → ⊙ → ○

3:00 ST出発 (時間33) 5:20 中又F1下 6:20 F4下 登山具を取出
6:40 登山開始 6P 8:40 F8上 登山具をとりだし (20分)
11:00 奥又の池 4P (20分) 12:00 北条新村 T1テラス 登山開始
15:00 終了 16:30 前ホ 17:00 前ホ出発 19:25 カッパ橋
20:10 帰テ

星空にふくらむ 徳沢への道は 静寂 々々もの。 中又 F1の下に
真中をうろたふかしたハルメツが ころかっていた。 F1の高さは
少し高くまきまきしてしまふ。 F4下へ 入り。 F4下にて アンテナイレンして
加賀瀬さんTOPで 村岸へ 横断して 美しい花崗岩のベース
を登る。 F8は F8下にて 至る横断して。 F8側壁を IP 登ると、ボルト
のある 滝の落ち口から3m程下の 外筋したテラスにつく。 アンテナ
は黒い壁はとつてもいい。 ところどころ 垂壁を登ったこの壁は 中又の
クライマックス。 ボルトのあるテラスより、水流に向かって進み 途中から 反折
に向かって トラバースしながら じじじに こまかいスタンスとボルトをたどり F8上へ
下には 滝つぼみか 真青な色をして いすにものみこみ とうに 口をみ
いるところだった。

F8上は、ところどころに 滝もあつたか あまり 毛が かく なく、 雪の 夏白
なスラックはいいよとて きれい。 青い水 といいとも、 キジ山降り かつた 7P
であまりは のめ ないネ。 奥又 7P スラスラ 沢を 尻尾に さらされて トラバ
ス。

北条・新村ルートは ハイマツテラスまで はずつまかガリー、 ハイマツテラス
から 小ハンゲを つり上げで こえて 上の リンケは、 アガミを 三〜四回 かけて
上へゆけ、 その上でのトラバースが きれいとて、 スバラシイ といつか、
そのおこい 高度感、 足もと のスタンスから 下は 下の 雪渓で 何もみえな
い。 このトラバースの 終り、 セオクールの あるテラスへ、 ここから またトラバース
して ピオケルを 回りこんで、 垂壁に11ケンの 連打して いるところを 登り
終了点へ。 終了点より トラバースして、 縦走路 に出る。 前ホへ 行く
このころ 二人とも 労力 使用の あり 7P、 7P、 死に とうて 下り
へて、 カッパ橋 につき じいれを 一本、 ぬして 小川 君に ST へと 向かえりて
カリー さいた さい ぬる。 これか おおの アラ マシ する。

信州大学長の山岳部
昭和47年10月15日印刷
同 発行

発行所 北沢校後

発行所 教育工場

限定70部 非売品

S N A C